

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 題材の評価規準の作成のポイント

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

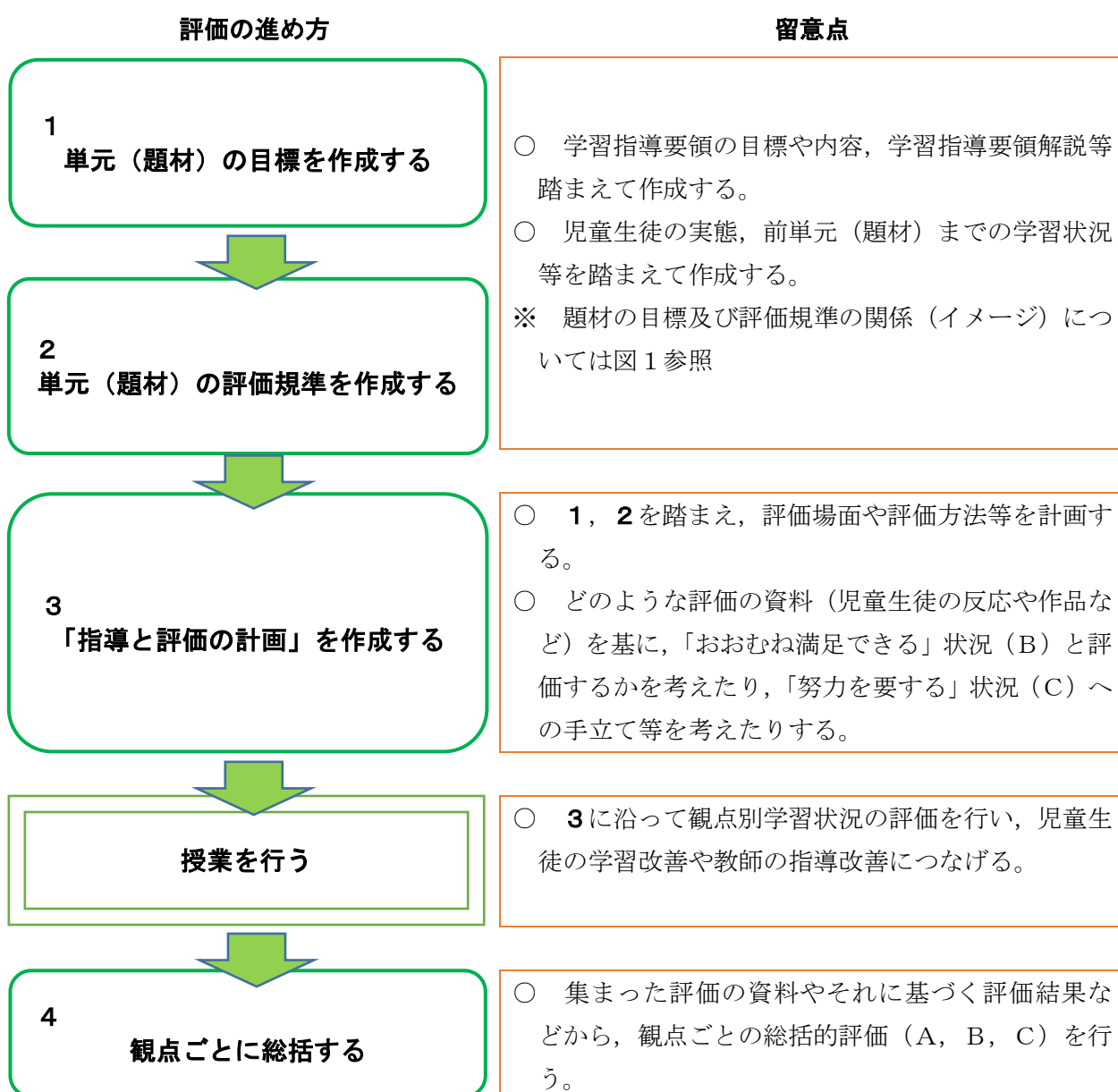
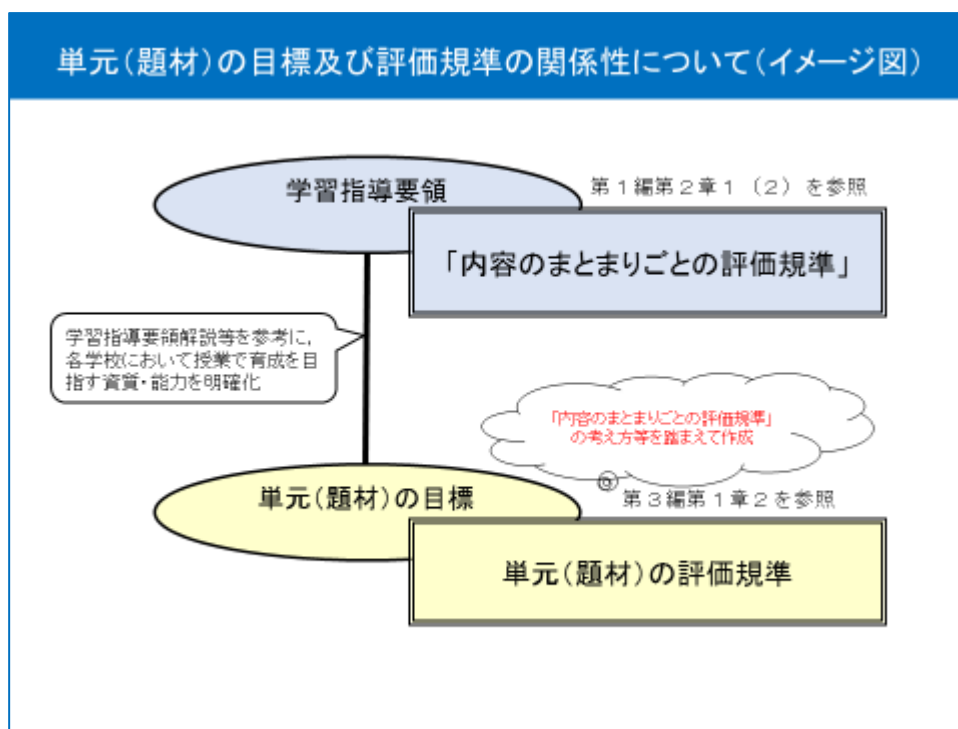


図 1



※ 調整中

2 題材の評価規準の作成のポイント

題材の評価規準作成のポイントは、以下のとおりである。

(1) 知識・技能

- ・ 「知識」については、観点の趣旨を「～について理解している。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。具体的には、「～」の部分に、その題材の領域や分野、学習内容等に応じて事項イの(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換える。
- ・ 「技能」については、技能を身に付けて表現している状態を評価することになるため、観点の趣旨を「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、～で表している。」と示し、その文言を用いて評価規準を設定する。具体的には、「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」の部分で、その題材の分野や学習内容等に応じた事項ウに置き換える。歌唱、器楽については、事項ウの(ア)、(イ)のいずれか又は両方を適切に選択して置き換える。また、「～」の部分に、「A表現」において扱う分野に応じて、「歌唱」、「器楽」、「創作」から選択して置き換える。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

＜評価規準を設定する際の留意点＞

- ・ 「音楽の構造」とは、音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど、音や要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有様などである。この「音楽の構造」は、「思考・判断・表現」の評価規準において位置付けた音楽を形づくっている要素との関わりについて十分考慮して指導と評価を行う必要がある。例えば、「思考・判断・表現」の評価規準で「音色」を選択して位置付けている題材の場合、生徒が「音色」を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える過程において、「この曲は、はじめは木管楽器の音色が中心になっているけれど、途中から金管楽器や打楽器が出てきているので、曲の前半と後半では、ずいぶん雰囲気が違うな」と捉えることがある。これは、生徒が「この曲は、A（前半）とB（後半）の二つの部分でできている」という、音楽の構造を捉えることにつながるものである。このように、「音楽の構造」は、「思考・判断・表現」の評価規準の中で選択した音楽を形づくっている要素との関わりの中で捉えていくことのできるものとして考えておくことが大切である。
- ・ (ア)、(イ)などのように複数の事項を示しているものについては、題材の目標に照らして、一つ以上を選択して設定する。また、評価場面や評価方法が同じである場合は、一文で表記することも考えられる。

(2) 思考・判断・表現

- ・ 「思考・判断・表現」については、観点の趣旨を①〔共通事項〕アに関すること、②「A表現」に関すること、③「B鑑賞」に関することによって構成し、「～している。」と示している。したがって、「A表現」の学習では①と②で構成することによって評価規準を設定することができる。なお、②については、創意工夫している状態を評価することになるため、観点の趣旨を「どのように表すかについて思いや意図をもっている」と示し、その文言を用いて評価規準を設定

する。また、「B鑑賞」の学習では①と③で構成することによって評価規準を設定することができる。なお、①については、その文末を「考えるとともに、」とし、③については、観点の趣旨の「音楽を（自分なりに）評価しながら」（（ ）内は第1学年）の部分に、その題材の学習内容等に応じて事項アの(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換える。

- ・ 「音楽を形づくっている要素」の部分は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換える。

＜評価規準を設定する際の留意点＞

- ・ 事項アの前半の「知識や技能を得たり生かしたりしながら」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とがどのような関係にあるかを明確にするために示している文言であるため、題材の評価規準としては設定しない。
- ・ 音楽を形づくっている要素については、〔共通事項〕アを「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力として明確化したことの趣旨を踏まえ、「生徒の思考・判断のよりどころとなる」ものとして適切に選択する。

（3）主体的に学習に取り組む態度

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、観点の趣旨を「～取り組もうとしている」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。
- ・ 文頭に、「〇〇に関心を持ち」を加え、その題材の学習において生徒に関心をもたせたい事柄を記載する。

＜評価規準を設定する際の留意点＞

- ・ 観点の趣旨に示している「音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう」は、「主体的に学習に取り組む態度」における音楽科の学習の目指す方向性を示している文言であるため、題材の評価規準としては設定しない。また、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。
- ・ 観点の趣旨に示している「楽しみながら」は、「主体的・協働的に」に係る文言であり、「楽しみながら取り組んでいるか」を評価するものではない。あくまで、主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるように指導を工夫する必要があることを示唆しているものである。
- ・ 「〇〇に関心を持ち」の「〇〇」は、「その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄」となるよう、十分に吟味して設定する。なお、「関心を持ち」は、主体的・協働的に学習活動に取り組めるようにするために必要なものであり、「関心をもっているか」のみを評価するものではない。

<参考：表1 第1学年「A表現」>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方〕について理解している。【知識】 〔事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方〕を身に付け、歌唱（※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」）で表している。【技能】	〔音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素〕を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか（※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」）について思いや意図をもっている。	〔その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄〕に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」）の学習活動に取り組もうとしている。

<参考：表2 第2学年及び第3学年「B鑑賞」>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔事項イの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上〕について理解している。【知識】 （「技能」に関する評価規準は設定しない。）	〔音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素〕を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに、〔事項アの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上〕について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	〔その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄〕に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

表1及び表2のゴシック体の〔 〕内は、題材で扱う学習内容に合わせて適切に選択した指導事項に置き換えたり、適切な文言を挿入したりする部分である。

【題材の評価規準（例）】

＜例１＞ 第１学年

A表現(1)において、事項ア、イ(ア)、ウ(イ)で題材を構想している場合の例

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
 ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準 例	<u>知</u> (※１) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。	<u>思</u> (※１) <u>音色, 速度, 旋律</u> (※３)を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	<u>態</u> (※１) <u>旋律と言葉との関係に関心をもち, (※４)音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</u>
	<u>技</u> (※１) 創意工夫を生かし, 全体の響きや各声部の声など(※２)を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け, 歌唱で表している。		

※１：「知識」と「技能」は、それぞれ分けて指導事項を示していること、また評価方法や評価場面が異なることが想定されること等を踏まえ、知、技と分けて略記している。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」については、それぞれ思、態と略記している。

※２：事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については削除できる。

※３：「音楽を形づくっている要素」には、中学校学習指導要領第５節音楽の「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」の２(９)に示した「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など」の中から、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載する。

※４：文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。

＜参考＞

- 第２学年及び第３学年の「A表現」において「思考・判断・表現」の評価規準を作成する際は、以下の点に留意する。

歌唱, 器楽	創作
<u>思</u> 音楽を形づくっている要素を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, <u>曲にふさわしい歌唱(器楽)表現としてどのように表すか</u> について思いや意図をもっている。	<u>思</u> 音楽を形づくっている要素を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, <u>まとまりのある創作表現としてどのように表すか</u> について思いや意図をもっている。

波下線部のように、「歌唱、器楽」と「創作」とでは、事項アに示している文言が異なること、また、第１学年とは観点の趣旨の文言が異なることなどを踏まえて評価規準を設定する。

＜例２＞ 第２学年及び第３学年

B鑑賞(1)において、事項ア(ア)、イ(イ)で題材を構想している場合の例

- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
- (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
- (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規 準 例	知(※１) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、 他の芸術 (※２)との関わりについて理解している。	思(※１) <u>旋律、テクスチュア</u> 、強弱(※３)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	態(※１) <u>音楽の雰囲気の移り変わりに関心</u> をもち、(※４)音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※１，※２，※３，※４は、＜例１＞と同様。

＜参考＞

○ 「B鑑賞」において「思考・判断・表現」の評価規準を作成する際は、以下の点に留意する。

第１学年 (事項ア(ア)の場合で例示)	第２学年及び第３学年 (事項ア(ア)の場合で例示)
思 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について <u>自分なりに考え</u> 、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	思 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について <u>考え</u> 、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

波下線部のように、「第１学年」と「第２学年及び第３学年」とでは、事項アに示している文言が異なるため、事項の文言に合わせて評価規準を設定する。

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2（4）で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○ 単元（題材）に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧に示している。

○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覧

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」(第2学年)

本事例は、「荒城の月」(土井晩翠作詞／滝廉太郎作曲)、「早春賦」(吉丸一昌作詞／中田章作曲)を教材として、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解しながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う歌唱の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」(1)歌唱の事項ア、イ(ア)、ウ(ア)、「共通事項」(本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素はリズム(拍子)、速度、旋律(音のつながり方やフレーズ)、強弱)を扱う。ここでは、指導と評価の計画から評価の総括までについて紹介している。

事例2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」(第2学年)

本事例は、長唄「鳥羽絵」の一部を教材として、三味線の音色や響きと奏法との関わりを理解しながら、三味線の音色を生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏する器楽の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」(2)器楽の事項ア、イ(イ)、ウ(ア)、「共通事項」(本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は音色、リズム、旋律)を扱う。ここでは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について紹介している。

事例3 キーワード 「思考・判断・表現」の評価

「音楽の多様性を理解して、世界の様々な合唱のよさや美しさを味わおう」(第3学年)

本事例は、世界の様々な合唱から「ピレンツェの歌(ブルガリア)」,「アリロ(ジョージア)」,「バイエテ(南アフリカ共和国)」の3曲を教材として、共通性や固有性について考えたり音楽の特徴や多様性を理解したりして、そのよさや美しさを味わって聴く鑑賞の題材である。学習指導要領の内容は、「B鑑賞」の事項ア(ウ)、イ(ウ)、「共通事項」(本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は音色、テクスチュア)を扱う。ここでは、「思考・判断・表現」の評価について紹介している。

事例4 キーワード 「知識・技能」の評価、「A表現」と「B鑑賞」との関連

「音色や音の重なり方の特徴を感じ取って聴き、2声のリズムアンサンブルの音楽をつくろう」(第1学年)

本事例は、表したいイメージと音素材の特徴及び音の重なり方などとの関わりを理解しながら2声のリズムアンサンブルをつくる創作と、「クラッピングミュージック」,「木片のための音楽」を教材として曲想と音楽の構造との関わりを理解しながらよさや美しさを味わって聴く鑑賞との関連を図った題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」(3)創作の事項ア、イ(イ)、ウ,「B鑑賞」の事項ア(ア)、イ(ア)、「共通事項」(本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は音色、テクスチュア(音の重なり))を扱う。ここでは、「知識・技能」の評価について紹介している。

音楽科 事例 1

キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

題材名

歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、
曲想を味わいながら表現を工夫して歌
おう【第2学年】

内容のまとめ

〔第2学年及び第3学年〕

「A表現」(1) 歌唱の活動及び〔共通事項〕(1)

1 題材の目標

- (1) 「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「荒城の月」, 「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

※「題材の目標」は、次のように一文で示すことも考えられる。

「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

2 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能〔共通事項〕

本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「リズム、速度、旋律、強弱」

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「荒城の月」,「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声,言葉の発音,身体を使い方などの技能を身に付け,歌唱で表している。	思 「荒城の月」,「早春賦」のリズム,速度,旋律,強弱を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら,知覚したことと感受したこととの関わりについて考え,「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「荒城の月」,「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち,音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画(4時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	◆「荒城の月」,「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもち。 ○「荒城の月」,「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもち。 ・「荒城の月」,「早春賦」のCDを聴いて,印象などを自由に話し合う。 ・「荒城の月」,「早春賦」それぞれの1番について,歌詞を音読したり歌ったりして,歌詞が表す情景や心情,曲の雰囲気などを〈ワークシートⅠ-①〉に書く。 ※ワークシートは本事例の最終頁を参照 ・書いたことを基にして学級全体で発表し合い,他の生徒の意見でよいと思ったことを〈ワークシートⅠ-①〉に書き加える。 ○「荒城の月」,「早春賦」の音楽の特徴の相違点などに気付く。 ・二つの曲を歌い比べながら,それぞれの音楽について気付いた特徴をワークシートⅠ-②に書く。(第2時以降の学習に生かす。)			
2	◆「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに,知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ○「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・「荒城の月」を歌ったりCDを聴いたりして,リズム(拍子),速度,旋律(音のつながり方やフレーズ),強弱を知覚・感受し,それらの特徴及び感じ取ったことを〈ワークシートⅡ-①〉に書く。 ○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに,音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。			

	・〈ワークシートⅡ－①〉に書いた「音楽を形づくっている要素」と「感じ取ったこと」を線で結び、適宜、書いた内容を修正する。 ・歌詞の内容をワークシートⅡ－②に端的に書き、音楽の特徴と歌詞の内容との関わりも意識して、「荒城の月」を歌う。（「感じ取ったこと」と「歌詞の内容」を線で結ぶ。） ○前時の学習を想起して「早春賦」を歌う。 ・「荒城の月」との雰囲気の違いを感じながら歌う。 ・「早春賦」の歌詞、リズム、音高などを意識しながら歌う。				
3	◆「荒城の月」と対比しながら、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。 ○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。 ・「早春賦」の歌詞を読み、歌詞が表している情景や心情について話し合い、それらを思い浮かべながら「早春賦」を歌う。 ○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱を知覚・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。 ・「早春賦」について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて意見交換をする（グループ）。その際、ワークシートⅠ、Ⅱに書いた内容を振り返って「荒城の月」と対比したり、楽譜（旋律、歌詞、記号など）を手掛かりにしたりする。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを基に、6/8拍子の感じ方、速度、音のつなげ方やフレーズの捉え方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「早春賦」にふさわしい音楽表現について考える（グループ）。 ・どのように歌うかについての思いや意図を〈ワークシートⅢの1〉の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイント（理由も含む）を〈ワークシートⅢの2〉に書く（個人）。 ・〈ワークシートⅢ〉に書いたことを発表し合い、グループや学級全体で歌い試しながら、「早春賦」にふさわしい音楽表現について共有する。	知 〈ワークシートⅠ、Ⅱ、Ⅲ〉	思 〈観察〉〈ワークシートⅢ〉		
4	◆創意工夫を生かして「早春賦」を歌う。 ○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。 ・前時で取り組んだ音楽表現の創意工夫を想起しながら、曲にふさわし				

	い音楽表現となるように学級全体やグループで、発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などをいろいろと試す。 ○思いや意図をもって「早春賦」を歌う。 ・どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったりより具体的になったりしたところがある場合は、ワークシートⅢに加筆修正する。(加筆修正があった場合は、思の評価に反映する。) ・思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ○題材における学習を振り返る。 ・「荒城の月」と「早春賦」を学級全体で歌い、学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことを〈ワークシートⅣ〉に書く。	技 〈演奏（歌唱）〉		↓ 態 〈観察〉〈ワークシートⅣ〉
--	---	---------------------------------	--	---

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 題材の評価規準の設定

本事例では、(a)～(c)のような手順で題材の評価規準を設定した。

(a) 該当学年の評価の観点と趣旨を確認する。

第2学年及び第3学年の評価の観点とその趣旨

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(b) 本題材で扱う学習指導要領の内容を明確にする。

第2学年及び第3学年 A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
〔共通事項〕

本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「リズム、速度、旋律、強弱」

(c) 第3編 p. 6 の「表1」を参考に、本題材で扱う学習指導要領の内容に置き換える。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 「荒城の月」,「早春賦」の(※1)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景(※2)との関わりを理解している。 ・ 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を(※1)歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	・ 「荒城の月」,「早春賦」の(※1)リズム、速度、旋律、強弱(※3)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」(※1)にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	・ 「荒城の月」,「早春賦」の(※1)歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、(※4)音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

※1：教材名を挿入した。

※2：事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については削除した。

※3：「音楽を形づくっている要素」には、中学校学習指導要領第5節音楽の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2(9)に示した「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など」の中から、本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載した。

※4：文頭に、本題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、興味・関心をもたせたい扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容などに関する事柄を記載した。

以上の手順で、本題材の評価規準を以下のように設定した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「荒城の月」,「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	思 「荒城の月」,「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「荒城の月」,「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 題材全体の学習指導における評価の位置付けと回数

題材全体の学習指導		評価の位置付け			
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象			評価の回数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	・「荒城の月」,「早春賦」の歌詞の内容,曲想などに関心をもつ。				0
2	・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し,「荒城の月」を歌唱する。				0
3	・前時の学習を生かして,「早春賦」の音楽表現を創意工夫する。	知 曲想と音楽の構造等との関わり の理解	思 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現の創意工夫		2
4	・曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ・題材全体の学習の振り返りをする。	技 創意工夫を生かして歌う技能		態 学習活動に対する主体的・協働的な取組	2

「知識・技能」については、知識の習得に関する評価規準（**知**）を第3時に位置付け、曲想と音楽の構造等との関わりについての理解の状況の評価すること、技能の習得に関する評価規準（**技**）を第4時に位置付けて、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能の習得の状況の評価することとした。

「思考・判断・表現」の評価規準（**思**）を第3時に位置付けて、第2時から第3時までの、音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況の評価することとした。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準（**態**）を第4時に位置付けて、第1時から第4時までの、本題材の学習活動への取組の状況について総括的に評価することとした。「主体的に学習に取り組む態度」については、本題材の学習内容等に関心がもてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、本題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的に評価し、適切な場面で総括的に評価することが求められる。

一方、実際の学習活動にあっては、これらの三つの観点に係る資質・能力は深く関わり合っている。例えば、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解は、第1時、第2時の学習が基盤となっている。また、そこでは、〔共通事項〕アに相当する思考力、判断力、表現力等がその支えとなっている。したがって教師は、生徒の状況を常に把握しながら授業を進め、様々な状況に応じた工夫のある指導を行い、生徒一人一人にとって学習が充実するように努めることが大切である。

このように、生徒の状況を常に把握し、工夫のある指導を十分に行う中で、評価規準に基づいて生徒一人一人の状況をA・B・Cで判断し、その結果を記録に残す。この評価の結果を記録に残す場面を精選し、上記のように1単位時間当たり0～2回とした。

(3)「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイントと「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

観点	評価 基準	〈評価方法〉 「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント
		「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例
知識・ 技能	知	〈ワークシートⅠ〉 感じ取った曲想と音楽の特徴について、おおむね妥当な内容を書いているか。
		〈ワークシートⅡ〉 感じ取った曲想と音楽の構造に関わる要素の表れ方、歌詞の内容等を書き、それぞれの関係性をおおむね妥当に捉え、線でつないでいるか。
		〈ワークシートⅢの1〉 楽譜に書き込まれた言葉や記号などから、「早春賦」の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容によって生み出されているのかを捉えていることが見て取れるか。
		「荒城の月」と「早春賦」の雰囲気の違いなどについて対話しながら、速度を変えた演奏を聴かせるなどして、雰囲気の違いが音楽を形づくっている要素の働きによって生み出されていることに気付けるようにする。
思考・ 判断・ 表現	技	〈演奏（歌唱）〉 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能について学習した内容が歌唱表現に表れているか。
		生徒とともにブレスの位置を変えて歌うなどしながら、言葉のまとまりや、言葉のまとまりを生かして歌うために必要な息の量などに意識を向けられるようにする。
		〈観察〉 「早春賦」にふさわしい音楽表現を追求する場面において、どのように工夫して歌いたいかについて発言したり歌い表そうとしたりしているか。
		〈ワークシートⅢ〉 感じ取ったことや音楽の特徴などに触れながら、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を書いているか。
主体的 に学習 に取り組 む態度	思	「荒城の月」と「早春賦」の雰囲気の違いなどを基に、生徒とともに「早春賦」を速度やブレスの位置を変えて歌うなどしながら、「早春賦」から感じ取った雰囲気にふさわしい表現について対話し、思いや意図がもてるよう促す。
		〈観察〉 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や味わいに関心をもち、自分が知覚・感受したことや他者の気付きなどを基に、どのように歌うかについて考えたり他者と共に歌い試したりしようとしている様子が、本題材の学習を通じて見て取れたか。
		〈ワークシートⅣ〉 学習の全体を振り返って、自分が学んだことについて、授業での学習内容を踏まえて書いているか。
		「荒城の月」や「早春賦」を、速度を極端に変えて歌ったり、言葉のまとまりとは異なる位置でブレスをして歌ったりした演奏を聴かせ、そのことによって感じる違和感などについて対話し、音楽を形づくっている要素の働きや歌詞と旋律の関係などについて興味がもてるようにする。

6 観点別学習状況の評価の総括

(1) 題材における観点ごとの総括例

《知識・技能》

表現領域においては、本事例のように「知識」の習得に関する評価基準と「技能」の習得に関する評価基準を設定し、それぞれについて評価した上で、「知識・技能」の評価として総括する。総括の仕方については、次のア、イ、ウなどが考えられる。

ア **知**、**技**が順に「A, A」, 「B, B」, 「C, C」のように、両方が同じ場合は、それぞれ、《知識・技能》の評価は「A」, 「B」, 「C」と総括する。なお、「C」の場合は、次年度等の指導に生かすことができるような所見を残し、必要に応じて指導要録に記載できるようにする（他の観点においても同様）。

イ **知**、**技**が順に「A, C」, 「C, A」の場合は、「B」と総括するが、このように、知識と技能の評価結果に著しい差があることを含め、次年度等の指導に生かすことができるような所見を残し、必要に応じて指導要録に記載できるようにする。

ウ **知**、**技**のどちらかに「C」があり、総括の評価結果が「C」以外である場合は、「C」と評価したものについて、次年度等の指導に生かすことができるような所見を残し、必要に応じて指導要録に記載できるようにする。

このように、音楽科では、指導事項において知識と技能とを分けて示しているため、それぞれの評価結果を総括して「知識・技能」の評価をすることが基本となる。この場合、題材単位では、その学習内容等によって知識と技能に軽重を付けることも考えられるが、その際は、一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることなどに留意する必要がある。

なお、鑑賞領域のみで構成した題材では、学習指導要領に「技能」に関する指導事項を示していないため、《知識・技能》の観点の評価は、「知識」のみの評価で総括することとなる。

《思考・判断・表現》

本事例では、「思考・判断・表現」について、**思**のように、一つの評価基準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となる。題材によっては、**思①**（〔共通事項〕アに関すること）、**思②**（〔共通事項〕アを支えとして、音楽表現を創意工夫したり味わって聴いたりすること）などのように、二つの評価基準を設定することも考えられる。そのような題材で評価結果を総括する際、二つの評価結果が異なる場合は、それぞれの観点について、次のア、イ、ウなどのような総括の仕方が考えられる。

ア **思①**、**思②**が順に「A, B」, 「B, A」, 「B, C」, 「C, B」の場合は、**思②**の評価結果を総括の評価結果とする。

イ **思①**が「A」、**思②**が「C」の場合は、「B」と総括する。

ウ **思①**が「C」、**思②**が「A」のように、**思②**が**思①**を上回った場合は、学習の深まりや向上などを考慮して、**思②**の評価結果を総括の評価結果とする。

《主体的に学習に取り組む態度》

本事例では、「主体的に学習に取り組む態度」について、**態**のように、一つの評価基準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となる。

題材によっては、一題材において、二つ以上の評価規準が設定される場合もあり得るが、「主体的に学習に取り組む態度」は、その題材の学習に粘り強く取り組んだりその題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んだりしているかを評価するものであり、題材の学習過程において、粘り強さや自己の学習の調整等に課題が見られた場合には、教師が適切に指導を講じる必要があるため、二つの場合は二つ目、三つの場合は三つ目で評価を総括することが考えられる。

（２）学期や年間を見通した観点ごとの総括例

学期や年間を見通した観点ごとの総括の方法には様々な考え方がある。ここでは、本題材を含む複数の題材にわたる総括例を次に示す。

〈領域・分野〉 題材名（時数）	題材の概要 （主な教材）	学習指導要領の内容	評価の観点		
			知・技	思	態
〈表現・器楽〉 楽器の音色を生かして表現しよう（３時間）	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、表現の工夫をしながら合わせて演奏する。（リコーダー合奏曲）	・「Ａ表現」（２） ア、イ（ア）、ウ（イ） ・〔共通事項〕本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ	C	B	B
〈鑑賞〉 管弦楽の響きや楽曲の構造を理解し、曲想を味わおう（３時間）	曲想と音楽の構造との関わりを理解して聴き、管弦楽のよさや美しさを味わう。（管弦楽曲）	・「Ｂ鑑賞」（１） ア（ア）、イ（ア） ・〔共通事項〕本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、テクスチャ、強弱、形式	A	A	B
本題材			B	B	A
〈表現・創作、鑑賞〉 箏に親しもう～構成を生かした創作と箏曲の鑑賞（５時間）	箏の音色の特徴及び反復、変化、対照などの構成上の特徴、音楽の特徴とその背景となる文化などとの関わりを理解して、構成を生かして音楽をつくるとともに、箏曲を味わって聴く。（箏曲）	・「Ａ表現」（３） ア、イ（イ）、ウ 「Ｂ鑑賞」（１） ア（ア）、イ（イ） ・〔共通事項〕本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、速度、旋律、構成	B	A	A
総括例 →			B	A	A

この例では、観点ごとの各題材の評価結果について、「Ａ」の数と「Ｂ」の数が同数であった場合は、学期や年間を見通した総括を「Ａ」とするという考え方をとっている。

この他にも、例えば、題材の目標、指導内容、配当時数などを勘案し、特に重視することが妥当と考えられる題材の評価結果に重み付けを行うなど、総括には様々な方法があるので、各学校において工夫することが望まれる。

【ワークシートⅢ】

- 1 感じ取ったことやどのように歌うかについての思いや意図

若丸 一昌 作詞 / 中田 章 作曲

「早春賦」

喜びやもどかしさを感じながら、6/8の流々にのって。

1 はるはなのみのかぜのさむさやーた
旋律が上がる。一気に高まるように。

3 フレーズを大切に、落ち着いて、少し不安を感じも。
にのうぐいすうたはおもえどーと

9 旋律の動きが変わる。くど生かしてはきりと。
きにあらずーとこえもたーてずーと

13 歌詞のくり返しを、Pでいかに伝える。
きにあらずーとこえもたーてずーと

15 残念な気持ちでPPやfに込めて。

- 2 特に表現を工夫するポイント（理由も書きましょう）

2回目の「こえもたーてずー」のppとfの表現を工夫したい。
うぐいすの鳥き声をきくことのできない残念な気持ちが伝わるようにしたいから。

【ワークシートⅣ】〈学習を終えて〉

「荒城の月」と「早春賦」を歌唱する学習の全体を振り返って、歌詞の内容、曲想、リズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱などに触れながら、学習したことについて書きましょう。

「荒城の月」と「早春賦」の2曲を歌ったことで、拍子や旋律の音のつながりによって、音楽の雰囲気が大きく変わることがわかりました。また、歌詞の内容を想像しながら、作曲者が書いた記号に気をつけながら、その曲に合った速度やフレーズ、強弱を工夫して歌うと、歌詞や音楽をつくった人の気持ちと、同じ気持ちになれて歌うことができたと思います。

※実物は左右それぞれがA4判

本事例で用いているワークシートと生徒の記入例

【ワークシートⅠ】

	「荒城の月」	「早春賦」
① 歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気など	- 昔を懐かしがっている - ゆったりとした悲しい感じ 〈他者の意見から〉 ・物音がな感じの中にも、とても力強いがある	・春を待っている様子が感じられる ・流れるようだ 〈他者の意見から〉 ・喜んでいような雰囲気、残念な気持ちの両方がある、優しい感じ
② 気付いた特徴 【拍子、速度、旋律の音のつながり方やフレーズ、強弱などに着目】	・淡々としたリズム ・速度はゆったりしている ・短調の旋律がある ・一音一音がつながるように響いていく	・リズムが生きてきている ・旋律が上がったり下がったりして、休符がない ・少しゆっくりになったり、強弱が突然変わったりする

【ワークシートⅡ】

	拍子	速度	旋律の音のつながり方 やフレーズ	強弱
① 音楽の特徴	4/4 拍子	・ゆっくりした速さ	・音の上がり下がりが多い ・一息が長い、大きなまとまり ・ほとんどの音がとなりの音につながっていく	・mf ・クレッシェンド、デクレッシェンドが多い
② 歌詞の内容		・力強い感じ ・声に迫力がある	・ゆったりしていて緊張感がある ・感情がこもっている感じ	・どこか悲しい感じ ・月はいつまでも変わらないが、人の世は変わってしまう ・昔は栄えていたが、今は荒れ果てて治気がなくなっていた